

令和7年12月9日

保護者の皆様

八王子市立恩方第二小学校
校長 有賀 康美

クマ対応について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

ご存じのように、東北地方を中心にクマ（ツキノワグマ）の出没が多発しており、人里での被害も出ています。八王子市では、クマの出没（目撃・撮影・捕獲）の情報は、1月から11月までで、31件あり、6割以上が裏高尾地域です。上恩方地区は、裏高尾に近い山の中に仕掛けたカメラに写っていたクマが7件ありました。また、7月に下恩方（聖パウロ学園の南）、9月に上恩方（和田峠近く）でそれぞれ1頭捕獲されています。3月・4月と11月は出没情報がありませんでした。

そんな中、初宿和夫八王子市長の先月の定例記者会見で、クマなどについて「人的被害はないが、注意を呼び掛けていく」との発言があり、本校でも、クマはもちろん、サルやシカ・イノシシなどの出没について、市の獣害対策課や関係機関と連携しており、クマについては、東京では生息数が少なくエサもあり、ほとんどは山の奥にいるため、人里には下りてこないだろうとのことでした。

今後も行政や警察、地域の町会等と連絡を取り、学校での教育活動はもとより、登下校時の安全確保に努めていきます。また、安全確保に対する情報が入りましたら随時、Home&Schoolで情報提供いたします。下に参考情報を載せておきましたので、お子様へのご指導もよろしくお願ひいたします。

参考

クマは本来、人間を恐れる臆病な動物。人間の気配を察知すれば、たいてい自ら距離を取って山へ戻っていく。人里に出てくるクマは山にエサがなく、人里の農作物や生ごみ、米、ペットフードなどを見付けて食べるうちに、人間のそばには「食料がある」と学習し、人間社会を「危険ではない場所」と認識している個体である。

人間を襲ってくるクマは、何かに驚いて恐怖に混乱や興奮状態、パニックになっている場合が多い。特に親子連れの母グマは子を守るため襲ってくる。

万が一目の前にクマが現れたら、クマを興奮させたり挑発したりしないため、
大声を出さない

すぐ動かない

目をそらさない

静かに後ずさりする

目をそらしたら、クマは「勝った」と思って襲ってくる。ある程度距離が取れて、クマが逃げ道を探して目をそらし、安全な道を見付けたらクマの方から逃げていく。もし至近距離で出会ってしまったらできることはない、致命傷を防ぐため、地面に伏せて両手で首を守る。市街地は、クマとの間に自転車等の障害物を置いて、直接突進されるのを防ぐか、近くに建物や車があれば素早く避難する。